

## 千里山の果ては今(二)

(旧一中通学路・阪急農園と郊外学園)

二十四回生 奥田 陽一

旧一中通学路・阪急千里山農場

上の噴水から西へたらだら坂を上り切ると、旧一中(千里山中学)の前に通じる長い坂道が見えます。私のお稲荷さん下の自宅から子供の足でも十分程で行ける場所です。

坂道に出る辺りには千二小同窓のMさんYさんの家があり、何とその先には21大久保千尋さんの住まれたお宅もありました。開発当初の千里山住宅地平面図を見ると、この辺と後述の「郊外学園」は両方とも、れっきとした当初計画に含まれた場所です。

大久保さんは会誌13号へのご寄稿「逝きし黒川高秀さんへ」の中に同級の黒川さんから「蝦蟇、毒蛾、毒蛾のいる所知らへんか」と聞かれたり、一中の先にある「牛ヶ首池」探検に連れてつと頼んで「何かあったら必死で逃げるから助けたらへんで」と言われて諦めた話など、当時の腕白坊主が抱いていたこの辺のイメージが窺えます。

大久保さん宅前からは一中前(千中前)を通り「一本

松」、「牛ヶ首池」そして山田村へ続く道があり一中前までは急な坂道です。

14柿崎さんから小学生の時、友達何人と自転車まで飛ばしたことがあり、同級のMさんが千中前のカーブを曲がりきれず道の脇へ頭から突っ込んだことがあり、幸い頭を打ったり、骨折はされなかったようですが、顔の傷は最後まで残っていたそうです。その辺りは千中以外人家は一軒もなく助けも呼べなかったとのこと、流石に小生もこの坂をノーブレーキ自転車で下りることはしておりません。



坂道を降りきった  
ところの信号

左奥に小さく見える  
看板がイオン入口  
(旧一中入口)

看板の後景に唯一昔  
を偲ばせる竹藪が  
写っております。

この先は南千里、  
千里ニュータウン内  
の幹線道路です。

一中時代は「一本松」へはランニング、「牛ヶ首池」は魚釣りによく行きました。でかい雷魚がいるそうで水面に浮かぶ姿を見たような気がします、フナ一匹釣れませんでした。その先は一中からウサギ狩りに行ったり、運動会でのマラソンや箕面公園まで遠足をした位、山田村や上新田には行った覚えはありません。

この道は戦前千里山駅前から山田のゴルフ場行きのバスが走り、戦後も小生の千二小低学年の頃は山田弘済院行きのバスが出ていたと記憶してますが、乗客が少ないのか何時の間にか廃止されました。上の噴水から真つ直ぐ進む平坦な南通学路が出来、昭和27年頃から正式な通学路でなくなりまし。一中に通っていた頃は通る人や車などは滅多になく、毎日朝礼に整列している前を片山鼎弘済院長(18片山章さん、23佐怒賀弘子さんのお父上、「ちさと」2号に妹さんの26笹井共子さんが鼎様の思い出を詳しく書いておられます)の車がゆっくり通る位でした。下の運動場に出るときも「左右の車をよく確認して横断せよ」との注意は一切ありませんでした。

タナゴが採れた池

大久保さん宅から少し坂を下ると左手に「阪急園芸」の\*「千里山農場」がありました。当時は番人などいなくて子供達は何時でも中に入れました。段々畑を横に

見ながら谷底へ降りる感じで大きな肥だめ(うっかり落ちたらすり鉢状で上がれそうもなかった?)だけに注意しながら、急な坂を下ると少し大きめの池があり、千里山ではココだけにしかないきれいなタナゴが採れました。

モンドリと言う底がじょうごを逆さまにした様な、セルロイドの道具がありました。私にはマヨネーズの空き瓶にひもを結んだ道具しかありません。ヌカを少し入れて池に投げ込みます。岸から近い場所です。十分もして引き揚げると中にタナゴがたくさん入っています。普段はフナと同じ色ですが、春先には産卵色というのか青色や赤色が交じってきれいな色に変わります。家を持って帰りガラス瓶に入れて飾るのですが、専用の水槽がない悲しさ、一ヶ月位で全部死んでしまいます。可哀想なことをしていたものです。

\*別稿の「山崎薫判事を偲ぶ」をご覧ください。千里山の悪名高き陥没道路の修理責任を巡り山崎判事は住民を代表して吹田市の村田助役と共に阪急と交渉され、阪急に責任を認めさせました。ただ、阪急も戦後の復旧でお金がなく、「千里山農場」1万坪を含む近辺の1万6千坪の土地を吹田市に寄付し、その売却金で吹田市が補修することになりました。吹田市も当初活用方法を決められず、資材置き場にしていたそうです。



↓  
下段の住宅地を裏の池側から撮影、擁壁が写っています。左側の建物は老人ホーム。タナゴが採れた池を埋立てて建てられた可能性があります。車では新御堂筋の側道から入るしか道はありません。

↑  
しげん池  
タナゴのいた池と思うのですが別にもう一つあり、埋め立てられた可能性があります（左の写真）。  
左上のマンションは斜面に建てられ、大久保さん旧宅に近接しています。池の向こうには竹藪が残っています。



↓  
農場跡の住宅地、車の止まっている家の後ろは高い擁壁があり、土盛りされています。

↑  
坂の途中千里山農場の入口があったと思われる辺り。



先述のようにこの地は谷のような傾斜地で吹田市も開発方法が決められず、何年もそのままになっていたようです。

状況が変わったのが昭和37年の千里ニュータウン入居開始、阪急の新千里山(南千里)延伸が間に合わず、一年程千里山駅前から通勤バスが旧一中通学路を走りました。それに合わせたように坂道の両側に分譲住宅やマンションが建ち始め、ちゃんこ料理「時つ」も開店しました。マンションの広告には千里山駅徒歩8分とあり、?マークを感じました。

昨年末、車で現地を訪れましたが住宅地に入ると行き止まりか、一周して元に戻る道ばかり、「タナゴ池」に直接行ける道は階段しか見つかりませんでした。吹田一中が「千里山の南の果て」千里山西2丁目に移転したのが昭和39年、跡地にジャスコ(現イオン)が開業したのが昭和62年のことです。一中の「中の運動場」に濾過装置付のプールが新設されたのは移転の数年前、香櫨園や芦屋の海水浴場まで通った私には恨めしい話で、吹田市も無駄使いをすと思いました。移転後も何年間か一般に開放されていたはずですが、

「牛ヶ首池」は少し狭くなったようですが、池の周りが整備され「千里南公園」となりました。南千里駅のすぐ近く、昔の少し怖かった雰囲気は全くなく、住民の憩いの場が変わっています。

「千里南公園」となった「牛ヶ首池」



21大久保千尋さんにご寄稿をお願いした処、悲しかったことも含め、素敵な思い出「千里山賛歌」をお送りいただきました。次ページ以降に謹んで掲載させていただきます。

## 郊外学園

昭和21年に千里山に越してきて、遊び場に不自由することは全くありませんでした。

開発の根本にしたロンドン郊外の街に因んで今は「レッチワースロード」と呼ばれる千里山駅から下新田へ行く道は当時は「本通り(外国の街で必ず見かけるメインストリートです)」と呼ばれ、肥桶を積んだ牛車以外、自動車などが通ることはまずなくて、絶好の遊び場でした。道路に棒きれで線を引いて、ドッジボール、宝踏みやゴム跳びなどやりました。道脇のプラタナスの木でカミキリムシを捕まえました。少し気分を変えるためには、お稲荷さんの上にある水源地に登り、大阪の景色を見たり、春はお花見、夏は蟬取り、「名無しの幼稚園」跡も空き地で大がかりな宝踏みが出来ました。

流石に道路でバットを使った野球は出来ないのですが、近所の遊び仲間から歩いて10分の郊外学園に連れて行って貰いました。ここは当時「千里山の南の果て」、入口の辺りには公園のような広い芝生があり、大小のプールや広い運動場がありました。運動場を使う子供はなく、軟式野球を存分にすることが出来ました。校舎のような建物がありそれで「郊外学園」と呼ばれているのかなと思いましたが、詳しい開設の経緯は千里山開

とグレーテル(残念乍ら女の子のグレーテルは居ませんでした)が森でお菓子の家を見つけた時の心境です。

怖いおっさんが来て「勝手に人のものを使うとは」と追いかけれないか、ビクビクしながら遊びましたのですが誰も来ません。美和遊園みたいに後ろで順番を待つ子も居ないので、好きだけ遊べたのですが、すぐに飽きてしまいました。この遊園地は「郊外学園」の施設の一つだったようです。

「千二小で同級だった女性に「郊外学園の奥の遊園地知ってるか」と尋ねたら「何回も遊びに行ったよ」とのこと、通る人もない淋しい道の脇でしたが、女の子も行ってたとは驚きでした。」

## 千里山郊外学園の開設

千里山開発物語(六) 千里山人

「千里山」第八号(2005年7月15日)より

同様の記述が扇町商業高校(当時の扇町高女)のHPにあります。

千里山住宅地の南西部に京阪電鉄は第五次造成地区として三八、一四二坪の土地をもっていたが、この地区は新田村大字下新田と小曽根村大字寺内と吹田市垂水の行政区劃線が入りまわっているため、一住宅地区として宅地造成するのいろいろと支障があったので、草茫茫というより街路樹のアカシヤの実が敷地内

発物語を読むまで知りませんでした。遊んでいるのは顔見知りばかり、知らない学校の生徒に会うことはありませんでした。プールは長いこと使われてなかったようで、ローラースケートやワンバン野球で遊びました。プールに初めて水が入ったのは、確か昭和27年夏、千二小6年の時、初めての千二小水泳大会が開かれ、夏休み中はPTAのお母さん方が受付や見張りをされ、自由に使うことが出来ました。

今もあるきつい坂道を降りていくと、両側には竹藪、雑木林、畑などが続き、その奥に人家が一軒だけあり、フナが良く釣れる池や大きなドングリが採れるクヌギ林もありました。今思うと緑地公園駅へ右折する道の少し先だったのでしょうか。竹藪や畑は私有地と思い込んでいましたが、実際には一帯は郊外学園の「演習用地」でした。吹田一中に通い出してから遊びに行くことはなくなりましたが、3年生の時の担任中谷清先生が江坂の男子生徒を何人も引き連れて、山越えで帰られるのに何度も付いていきました。さよならして引き返すのがこの辺りで、江坂まで行ったことはないし、竹藪や雑木林を通り抜けてもつと奥へ行くこともしておりません。

昭和26年頃だったか、道の左手の竹藪のなかに滑り台、ブランコ、シーソーなど真新しい遊具が設置されているのを見つけました。グリム童話にあるヘンゼル

に散って、それが勝手に生えてアカシヤの自然林の中に埋もれたまま放置されていた。この土地を活用する案として、当時大阪市が市内の虚弱児童を郊外の健康地の学園で学習や体育訓練を施す郊外学園をつくる計画をもっていたので、京阪電鉄は大阪市教育部に話かけて、この土地を無償で貸与し、且つ郊外学園として必要な施設をする、その代わりに大阪市は市内の小中学校生徒を毎日平均五百人をここに校外学習せしめるということを取りきめた。大阪市と京阪が二十年間の期限で土地の使用貸借契約を結んだのは昭和十三年二月であった。時の教育部長は今を時めく菅野和太郎氏であり、斯案の推進者は前大阪市教育長で当時、郊外指導視学の岸本準一氏であった。京阪は契約に基いて、学舎(三教室)、プール、徒歩池、花壇、運動場、農具倉庫等を建て七月三日の市立千里山郊外学園の開園式には菅野教育部長が臨席して挨拶し、初鋤を入れた。

この学園は一万坪程は郊外学園としての諸施設が整備されていたが、残り三万坪は自然のままに松林あり竹藪あり眺望のきく台地あり又池ありで、この自然環境に市内の児童は喜んで走りまわっていた。熱心な学校はこの自然境の中に自校専用の郊外学舎を建てた。扇町高等女学校、集英小学校、菅南小学校、西天満小学校がその例である。又この学園外であるが千里山丘

陵の自然環境を求めてここに郊外学舎を建てる学校もあった。西華女学校や島学園の千里山中学校（吹田市立第一中学校の前身）などがその例である。

戦争が烈しくなり大阪市内が空襲を受けるようになると、これら郊外学舎は戦災罹災者の住居となったが、その後京阪電鉄が阪急電鉄より分離して、阪急が千里山線の経営を引継ぐこととなり、阪急は大阪市と交渉して土地貸借契約を解除して住宅地とした。

市より返還をうけた郊外学園の土地は実測すると四万五千坪程あった。大阪住宅建設協会はこれを一括して阪急より譲り受け、昭和二十八年二月二十七日売買契約を結んだ。宅地造成のできている土地は一万六千坪で、之らは富士銀行寮や集英寮等に分譲されたが、未造成地約三万坪は山あり谷あり竹藪ありの荒蕪地であった。当時としては進駐軍しか使っていないかった大型のブルドーザーを使って、宅地造成工事を大がかりにやった。こうして出来上がったのが現在の緑ヶ丘住宅地である。かつての郊外学園の入口正面から中心部になるところは、今は富士銀行の千里山寮となっている。丁度その頃より朝鮮事変ブームがおこって、住宅地の地価が昂騰し始める。

#### 大阪市千里山郊外学園地域図

「あゆみ」と「千里山今昔物語図録」に創設当時の郊外学園地図が載っております。パソコンに取り込み拡大して解読を試みましたが、文字が潰れていて殆ど読めません。図録の編集に当たられた20中野直衛さん、写真など多数提供頂いた20浅野倉平さんにお尋ねしたところ、原本は千里山会館にあったが、整理中に反故として捨てられてしまい現存しないそうです。お二人から頂いた情報を図中に入れましたが、不明な文字が多数残りました。もし読者の皆様の中で原本のコピーをお持ちの方がおられましたらご提供お願いします。

その時千二小の恩師東谷勝司先生が、郊外学園について調査されていることを知り、千里山に行った際伺って教えを請いました。早速先生から分厚い資料が届き、以下その一部を掲載させて頂きます。

大阪市千里山郊外学園地域図では「演習用地」を含むその全貌は判りませんが、東谷先生から頂いた地図によると、吹田一中・千三小を含む現在の千里山西2丁目・3丁目一帯の広大な地域でした。一部には江坂北之町も含まれています。また、富士銀行千里山寮の前を通る道の左右両側は吹田市ではなく、行政区画は富士銀行寮も含め、豊中市東寺内町です。



#### 戦前の扇町高女の郊外学舎

東谷先生の奥様、睦子先生(旧姓弘末)は戦時中に扇町高女を卒業され、当時の貴重な日記やアルバムなどを大切に保存されています。以下東谷先生から頂いた原稿を謹んで掲載させて頂きます。

千里山開発物語(六)「千里山郊外学園」の項に「熱心な学校は、この自然環境の中に自校専用の郊外学舎を建てた、扇町高女、集英小、菅南小……がその例である」とある。

扇町高女の場合、この学舎は太平洋戦争激化の頃「千里山学園道場」と改称され、このアルバムのスナップ写真のように、生徒の活動は、専ら農作業であった(アルバムの別のページには田植え、稲刈りの風景写真もある)。

扇町高女がなぜ農作業に重きをおいたか、戦時下、農村の若者たちは、相次いで兵隊にとられ、どの農村も人手不足が深刻となった。したがって、農村の応援として女学生が派遣された。そのため、農作業の訓練の必要から、扇町高女は積極的にとりくんだのであった。

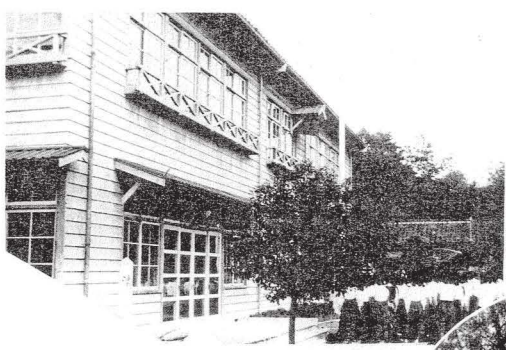
その建物は、現千三小の西にあり、戦後は、大阪市の戦災者の仮設住宅に転用された。



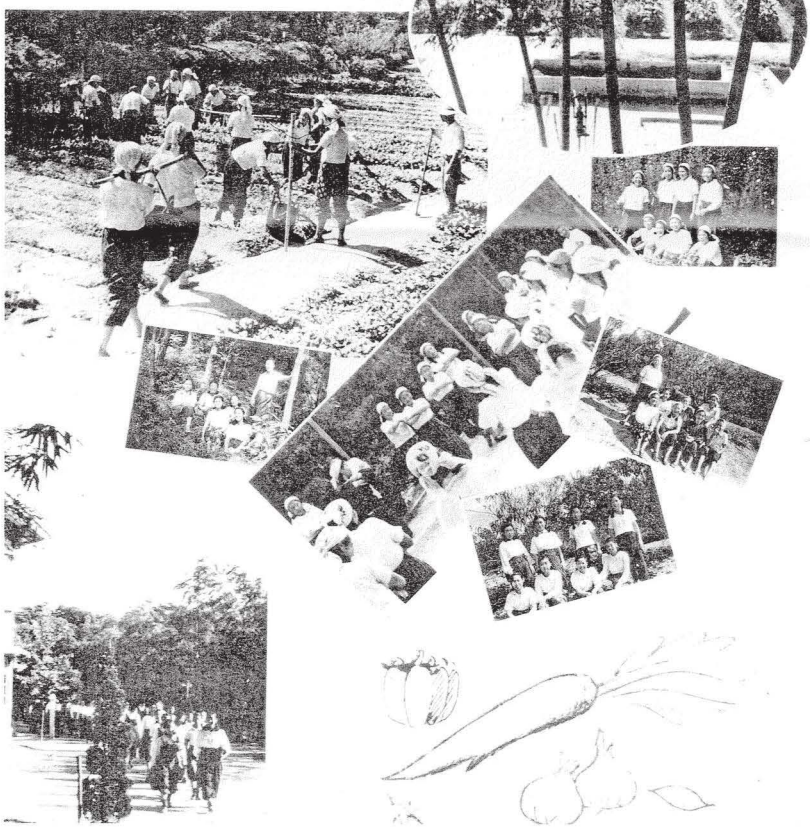
集英小郊外学舎の思い出



26 滝梢さん提供



千里山学園  
道場



扇町高女外学舎 東谷勝司先生提供 奥様の睦子先生のアルバムより  
太平洋戦争激化の頃「千里山学園道場」と改称された

扇町高女千里山郊外学園学舎の落成式は昭和14年11月1日(水)に行われ「清明寮」と名付けられた(睦子先生の当時の日記に記載されていたものです)。

また、26灌(大森)梢さんからは集英小学校の資料を提供して頂きました。集英小学校は明治6年5月開校の伝統ある小学校です。

「千里山集英寮」落成 昭和16年4月20日  
現在の「緑地公園駅」の近く  
郊外学園閉鎖に伴い千里山の寮地460坪を買収  
昭和36年

「千里山集英寮」閉鎖 昭和48年3月  
愛日小学校と統合し開平小学校が誕生  
平成2年4月1日

郊外学園の閉鎖と住宅地開発、「緑地公園駅」  
前述の通り郊外学園が閉鎖されその跡地4万5千坪余が大住宅建設協会に一括売却されたのは昭和28年2月のことです。その頃は小生も郊外学園に遊びに行くこともなくなり、富士銀行の寮が建設されたことは知っておりましたが、その他の開発については殆ど知りませんでした。高校入学後の昭和31年頃、たまたま郊外学園そばの友達を訪ねることがあり、プールなどがあった周辺一帯が緑が丘住宅地となり一戸建てが沢山

建ったことを知りました。ただ、少し歩くと家並みが途切れ、その奥で大開発が行われているとは全く知りませんでした。

昭和45年万博が開催された時、地下鉄御堂筋線が江坂から北大阪急行となり会場まで延長されました。千里山では郊外学園の先に地下鉄の駅が出来ていると噂が拡がりました。私も梅田乗り換えで淀屋橋まで通勤しており、本当なら便利なのだと思いますが、行きは下り坂で良いとしても、夜遅く酔っ払って坂を登るのはしんどそうだなとも思っておりました。

「緑地公園駅」は完成していても実際の開業は昭和50年、小生が東京通勤になった後でした。開業が遅れた理由は、ニュータウンと結ぶ新線に出る補助金を、桃山台と江坂間についてももらうため(開業するとニュータウンから一駅分、緑地公園駅まで、江坂までの補助金が出ない)だと言われています。当時は緑が丘住宅地も開発途上で十分な乗降客が見込めなかったこともあったと思います。残念乍ら「緑地公園駅」から一本で淀屋橋まで通勤することは叶いませんでした。

「うろおぼえ千里山イラストマップ」に見る  
もう一つの「千里山の南の果て」  
田代為寛さんの作品は当会誌に初めて掲載、今昔物語図録にも転載された懐かしい千里山の記録です。



噴水から南に行く大きな道(と思っただけ)があり、大学前へ通じる道を曲がらずに、まっすぐ緩やかな坂を上る辺り、小生にとっても懐かしい場所です。この辺りは当初の千里山住宅地開発図にあり、住宅地の南の果てです。マップにある金政さん(お父さんがセリーグの審判)、熊谷さん(17号でイグノーベル賞授賞についてご寄稿)、そして説明はないのですが田代さんの旧宅の南側にはアリナミンの発明で有名な、タケダの松川さんのお宅があります、皆さん千二小の同期でそれぞれお家に伺ったことがあります。この辺りは小生の家から10分ぐらいい、「千里山の果て」などと思っただけもなく、よく遊びに行っていました。イラストマップにある「そりで遊んだ斜面」、よく遊びました。柏倉さんの家の先は柵があり、雲が描いてあるのは、その先まで行く子供はあまりいなかったこととの表現とします。この辺り一帯は郊外学園の「演習用地」の「北の果て」でした。

昭和39年7月に吹田一中が移転して、担任だった先生の宿直の時初めて訪ねました。柵を越えてまっすぐ行く、両側に家も建っていない淋しい道を、大分歩きました。夜だったので辺りがよくは判りませんが、相当辺鄙な場所に思えました。

その後緑が丘住宅地にはびっしりと家が建ち並び、去年11月現地を訪れてびっくりしました。緑が丘住宅地の住所表示は千里山西2・3丁目と変わりましたが、家が建てられはじめて50年以上千三小、吹田一中にも近く、堂々たる文教地区です。緩やかな坂道、センザイの生垣のある家等、現在の千里山の住宅が殆ど建て替えられ、昔の面影がなくなったのに対し、懐かしい昔の千里山を感じます。

吹田一中のHPで最寄り駅を見ると関大前8分、緑地公園10分、千里山は遙か遠くなりました。文教地区として最高だし、二つの駅に近く、不動産価格は千里山より高いのではと感じました。

最大の救いが千三小、吹田一中の北側筋向かい、鉄条網や鉄柵で厳重な柵が作られ、立入禁止ですが、昔懐かしい丘陵や果実林が唯一残っています。柵をくぐって立ち入るのは造作もないのですが、流石に歳のことを考えて止めておきました。今後もし宅地に開発される前には、ちゃんと許可を取って、写真など撮って置きたいものです。

伊藤千恵さん(千三二・吹田一中28)から40年ぶりの吹田一中同窓会の記録をご提供頂きました。吹田一中の現況写真もあり次ページ以下に掲載致します。